

理事会・総会を開催しました。

平成 24 年度第 1 回理事会・総会を 6 月 6 日（水）に北とびあ（東京都北区）にて開催しました。議案はすべて承認され（結果および報告事項はメール等にて連絡済）、初の試みである懇親会も約 60 名が参加し、相互交流しました。

専門部会の動き（6 月分）

【東北農業復興プラン検討部会】

南相馬市において、太陽光発電とドーム型栽培施設と体験学習を組み合わせた「南相馬ソーラー・アグリパーク（農業公園）事業」を進めていくという報道がなされています。今回は、そのことについて、内容の詳細を報告しました。そして、復興交付金についても仙台市、南相馬市の状況を共有しました。

今回は、引き続き各メンバーから題材を持ち寄り、検討を進めていきます。

【輸出】

輸出のしくみをもつ会社より、具体的な数量を示した見積を提出いただきました。

これを基に、輸出を希望する会員の関連会社と打ち合わせを行い、先方が要望する農産物等を集めるという動きになります。

また、輸出に関する意見交換を行い、今後の進め方を検討しました。

【人材育成①】

冒頭、㈱あぐりーんと連携の進捗について報告を行いました。7 月からは同社 HP に当機構研修農場バナーを設置します。

また、新潟県の農業法人から、高齢化の進む集落営農の受け皿となり得る法人のビジネスモデルについて、相談がありました。方向性については肯定的な意見が寄せられましたが、実現には地域との調和を図りつつ、時間をかける必要があるだろうとの結論に至りました。

【人材育成②】

前回から引き続き、J-PAO 主催セミナーのありかた（目的やターゲット）についてとトップマネジメントセミナーの開催内容について協議を行いました。

主催セミナーについては、J-PAO の強みである「実際に事業に取り組んでいる会員の『民の力』『民のノウハウ』を生かすこと」、「まずは試行することが大事」という意見がありました。そこで、たたき台（6 次産業化関連）を作り、検討していくことにしました。

トップマネジメントセミナーもこれまでの意見を基にたたき台を作り、次回検討していきます。

上越市農産物等販売セミナー進行中

J-PAO は、新潟県上越市農産物等販売促進実行委員会が主催する「農産物等販売セミナー」の業務を受託し、現在進行中です。

この販売セミナーは、上越市内の農業者を対象に「消費者に向き合う生産者」を育成することを目的に開催するものです。ここでは、講演やグループワークだけではなく、都市型直売所での実践販売や全国規模の商談会、築地市場との連携事業にも参加するものです。そして、実践後の振り返りセミナーを行い、次年度以降の取り組みにつなげていこうというものです。J-PAO は、この中の販売戦略セミナー（講義＋自ら売りたい農産物の訴求ポイント等を洗い出すグループワーク）とイベント出展者に対する個別指導（出展前および出展当日）を担当しています。

6/18、6/25 に開催したセミナーでは、受講生が積極的に自分を開示し、他者へアドバイスをを行うなど積極的な姿勢が印象的でした。

受講生のうち 7 先は、6/30 に JR 日暮里駅前（東京都荒川区）で開催される「荒川区交流都市フェア」に出展します。

主な活動（6/1～6/29）

- 6/6 平成 24 年度第 1 回理事会・総会（北とびあ）
- 6/12 第 60 回企画運営委員会
- 6/13 茨城県信用組合職員研修（神崎）
- 6/18、6/25 上越市農産物等販売促進セミナー（神崎、高田他）

新規入会会員のご紹介

今回より、会員の皆様の取り組みなどを順番にご紹介していくこととしました。

まずは、本年度新しく J-PAO に入会された 2 つの法人のご紹介です。

■茨城県信用組合

○農業者向けのサポート活動について

当組合が営業基盤とする茨城県は農業産出額全国第 2 位(平成 22 年)の農業大県であることから、「農は国の基」という考えの下、農業者への円滑な資金供給等の取組みを行ってきました。

平成 20 年 11 月には「農業事業グループ」を「農林水産部」として分離独立させ、農業者への更なる支援強化を図っているところです。

具体的な支援活動として次の 3 点をご紹介します。

- ① 農業者の販路拡大をサポートする為のビジネスマッチングに積極的に取り組んでおります。当組合では県下に 84 の店舗網を有し、平成 24 年 3 月末現在で県内各地から約 300 件強の「売りたい・買いたい」情報を蓄え、マッチング成約も順調に進んでおります。この分野は県内農業の活性化にも資することから、今後も特に力を入れて推進していきたいと考えております。
- ② 農業後継者に対し、その分野の専門家を招き講演会、セミナーを定期的に開催しております。過去に開催した内容は「農産物の安全対策について」、「経営計画の重要性・事業の継承対策」、「公庫資金を含めた農業資金の活用法」、「農商工連携および 6 次産業化に関する施策」等であり、受講された方々からも好評を博しました。
- ③ 農業者からの資金需要に関しては、茨城県農業信用基金協会付融資「豊年」をはじめ、その他資金使途に応じて「ゆとり」「上棟」「百方」と融資商品をラインナップし、お客様のご要望に迅速に対応しております。

以上、当組合が農業者に対し行っているサポート活動の主な内容です。

○J-PAO に期待するもの

私どもが日々の活動において最も重要と考えているお客様への情報提供(特に「6 次産業化」、「販路拡大」等)について、J-PAO の豊富なネットワークと実績から適切な指導がいただけることを期待しております。

■株式会社あぐり〜ん

このたび、J-PAO の趣旨に賛同し、縁あって会員となりました株式会社あぐり〜んの吉村と申します。

私どもは、農業分野に特化した人材サービスをおこなっており、人材を求める農業者と就農希望者とを繋ぐ役割を担うべく、2009 年より活動をおこなっております。

これまでも、国や各地方自治体などが就農の相談窓口を設けるなど、同様のサービスはございましたが、私どもは民間ならではのフレキシブルな視点で、農業者にとって、また、就農希望者にとってよりきめ細やかなサービスを提供し、農業の発展に寄与して参りたいと考えております。

具体的なサービス内容は、以下のとおりです。

- ・農業求人サイト「農家のおしごとナビ」の運営
- ・農業分野専門の職業紹介事業(人材紹介)

「農家のおしごとナビ」は、就農希望者に向けて農家の求人情報を発信するインターネットのサイトです。インターネットで「農業 求人」と検索していただくと 1 番上位に表示されるため、農業に従事したいという意識の高い方々が集まってくるサイトとなっており、現在月間約 23,000 名のご利用者がございます。農繁期の農作業アルバイトの募集はもちろん、会社の核となるような人材の募集、独立希望者や後継者候補の募集など、農業分野の求人は全て募集可能です。2009 年のサイトオープン以来、これまでに約 400 軒の農家の求人を扱って参りました。

また、職業紹介事業におきましては、農業者の要望に基づき、人材をご紹介しますというサービスをおこなっております。意欲の高い若手従業員の募集や、経験者、有資格者の募集など、通常の募集活動ではなかなか確保が難しい場合などにご活用いただいております。

「人」は重要な経営資源です。私どもは農業者の「人材」に関わるお手伝いをすることで、側面からにはなりますが、農業の発展に貢献したいと考えております。

また、農業の発展のためには、採用した後、その人材を農業者がどう育てていくかが大事だと考えます。今後、J-PAO と連携し、その課題の解決にも関わっていききたいと考えております。今後ともよろしくご厚意申し上げます。

往復書簡

今回からは小川源太氏（青森県、黄金崎農場）と当機構副理事長の高木勇樹との往復書簡です。

拝啓 高木 勇樹 様

新緑の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。この度はこのような機会を通して高木様と手紙のやり取りができることを嬉しく思うと共に、自分がどうして現在農業に携わっていて、これからどうしていききたいのかを再度考えるきっかけとなればと思います。

私の両親は農業の経験は全くなく、私もいざ就職が間近に迫るまでは農業に従事しようとは考えたこともありませんでした。「働く」とは思ったけどういうことなのだろう。子供の頃はお金を稼いで暮らすための「手段」だとしか思っていなかったのだが、自分がその世界に入ろうとした時に「それって楽しいの？ 幸せなの？」という疑問が湧いてきました。あまり好まない仕事をしながら、給料や休日をしつかりもらってそれを楽しむという方向もあつたかもしれない。しかし、やるならばやりたいことを思い切り出来て、自分にプライドをもてる「目的」としての仕事をしたいたい、農業の門を叩きました。そして、百姓が要求される多彩な能力の魅力や、日々感じる様々な幸福感にやはり農業に携わってよかつたと思える自分がいいます。「空腹は最高の調味料」というように、同じものであつても受け取る人の感じ方一つで全くの別物になつてしまうのと、幸せの感じ方は同じなのだと思います。

農業は国にとって最も重要だと世間では叫ばれていながら、どうして一般的な就職先として選ばれにくく、いわゆる「優秀」と言われる人たちが入つてこないのだろうという疑問を、半分わかりながら、もその要素を消していけるようにしたい。これまで

「私」の仕事には満足を感じてきましたが、「公」の仕事にも携わつていきたいと思ひます。一端端である我々であつても、前例となることで世の中に影響を与えることは可能でし、「類は友を呼ぶ」で仲間が集うことができると思ひつています。これからますます面白くなつていくであろう農業に期待を寄せるとともに、本業の生産以外にも多方面に学習していく必要性を感じています。将来の日本、子供や孫たちが飽食ではないにしても、飢えないようにという気持ちでいっばいです。我々の経験したことのない日本という社会のなかで奮闘してこられた高木様の人生観をお聞かせいただければ幸いです。

敬具

小川 源太（おがわ げんた）

一九八一年北海道札幌市生まれ
株式会社黄金崎農場 葉物野菜担当
弘前大学卒業後北海道の個人農家にて従業員として畑作の知識等を学んだ後、現農場に就職
北海道に劣らない素材をたくさん持つ青森の魅力
を全国に発信していきたい。
昨年一児の父親となつたが、育児と野菜の育苗・圃場管理を照らし合わせている日々。



上段：農場での結婚式

拜復 小川 源太様

六月九日関東甲信北陸の梅雨入りが発表されました。日本の梅雨は、四季に加え五季などと言われるほど長いのが特徴ですが、農作物にはとても大事です。

貴兄のお手紙を拝読し、今さらながら農業を見る物差しの変化を感じ、確実にいい方向に向かっていくと確信しました。

そのひとつは就職観です。私が就活をした五十年ほど前、就職先の中に「農業」はありませんでした。農家の子弟が就くものとの社会風潮があり、私もそれが当然と思い込んでいました。仮に「農業」を選択したら、親の反対と周囲の冷たい視線にさらされたでしょう。貴兄はプライドをもつて働ける目的が持てる職業として「農業」を選択され、ご両親も周囲（社会）もそれを当然視しています。

もうひとつは時代・社会の農業観です。私のおときは、経済は右肩上がりの絶好調、農村から都市への急速な人口移動、オリンピックも開催という時代背景の中、コスト高の国内農業不要論、つまり農業バッシングが国民意識の主流でした。

近年の農村、農業の疲弊、食料供給力衰退（農地、人などの経営資源のせい弱化）の顕在化により、強い農業、農業の産業化が叫ばれ、その方向での制度・システムも、既得権の壁に阻まれながら蝸牛の歩みですが、芽を出し始め、農家の子弟以外の方、他産業異業種の農業参入が珍しいものではなくなくなりました。当然農業界でも、農業を、経営として持続する産業として取り組んでこられた少数派の方

も、大手を振って活躍できるようになりました。

このように、私は農業を見る物差しの大きな変化を実感するのですが、貴兄には、国の基といわれる農業がなぜ「優秀」と言われる人の選択先にならないのかという疑問は残ったままです。

このなぜ（疑問）を深掘りし、貴兄の考える解決策を次回ぜひ提示していただければと思います。

「類は友を呼ぶ」核となる考えになり、その組織は必ずや既存組織を超える存在に発展する、また「公」に携わる際の自信にもなるかと確信するからです。

次回のお手紙を楽しみにしています。

敬具

平成二十四年六月吉日

高木 勇樹（たかぎ ゆうき）

一九四三年 群馬県生まれ
一九六六年 東京大学法学部卒後農林省入省。食品流通局砂糖類課長、大臣官房企画室長などを経て、食糧庁管理部長、畜産局長、大臣官房長、食糧庁長官など歴任。

一九九八年 農林水産事務次官、二〇〇一年退官

二〇〇二年 農林中金総合研究所理事長

二〇〇三年 農林漁業金融公庫総裁、二〇〇八年同公庫退任

二〇〇七年 NPO法人日本プロ農業総合支援機構副理事長

現在、NPO法人日本プロ農業総合支援機構副理事長などの立場から、わが国農業・農村の活性化、食の問題の解決に向けた活動に尽力。

